

**児童・思春期精神科看護における  
看護実践能力自己評価尺度の開発  
～尺度原案の作成～**

**調査結果のお知らせ**

平成 30 年 3 月

平成 29 年～32 年度 文部科学省科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）児童・思春期精神科病棟における地域包括ケアの視点を取り入れた教育プログラムの開発  
研究報告書

## はじめに

子どもの心の問題は、いじめ、不登校、虐待、若年者の自殺、少年犯罪などに関係しており、関心が極めて高い社会的課題です。精神疾患の治療を受けている20歳以下の子どもは、22万人以上にのぼり、過去10年間で約2倍に増加しています(厚生労働省, 2014)。

児童・思春期精神科や小児心療内科等の子どもの心の診療を行う病院が増加し、看護師が子どもの心のケアを行う機会は増えています。児童・思春期精神科看護の質を向上させるためには、看護実践を定量的に評価できる指標が有用です。

本研究の目的は、児童・思春期精神科看護におけるコンピテンシーモデル(船越ら, 2016)を理論的基盤として当該看護領域に特化した実践能力自己評価尺度原案を作成することです。

厚生労働省: 平成26年度患者調査, 2014. (<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/kanja/14/>)

船越明子、角田秋、羽田有紀: 児童・思春期精神科病棟における看護実践向上のためのコンピテンシーモデル, <http://capsychnurs.jp/competency/>, 2016.

## 方法

まず、児童・思春期精神科看護におけるコンピテンシーモデルに示された中堅看護師に求められる103項目の行動特性をもとに、文献検討の結果を参考にしながら、研究班で取捨選択と表現の修正を行い、45項目のアイテムプールをリストアップし子どもの心のケア実践尺度(案)としました。

次に、看護師としての臨床経験を3年以上有し、そのうち児童・思春期精神科看護の臨床経験を1年以上有する5名を対象に、尺度(案)への回答、回答への困難さ、所要時間を調査しました(1回目調査)。1回目調査の結果について、研究班で尺度項目の表現等を検討し、修正した41項目の尺度(案)について、1回目調査と同じ対象者に対して、尺度原案への回答、回答への困難さ、所要時間を再調査しました(2回目調査)。

子どもの心のケア実践尺度案(2回目調査)の尺度得点と、看護実践の卓越性自己評価尺度(亀岡, 2009)、1回目調査の結果を比較するとともに、回答困難さと所要時間等について質的な分析を行いました。

亀岡智美: 看護実践の卓越性自己評価尺度—病棟看護師用—, 看護実践・教育のための測定用具ファイル(第二版), 63-73, 医学書院, 東京, 2009.

## 結果

対象者は、28～56歳の女性5名で、児童・思春期精神科病棟での経験は4.5年～31年と幅がありました。2回目調査で用いた41項目の子どもの心のケア実践尺度（案）は、1回目調査および看護実践の卓越性自己評価尺度と高い相関を示しました（表1）。

表1 子どもの心のケア実践尺度（案）総得点 1回目調査と2回目調査の比較

ID	子どもの心のケア実践尺度						看護実践の卓越性自己			
	2回目	1回目 41項目	r	p	1回目 45項目	r	p	総得点	r	p
1	217	211			231			141		
2	193	195			217			150		
3	180	168	0.900	0.037	185	0.900	0.037	122	0.900	0.037
4	188	205			227			130		
5	170	146			159			121		

a) 1回目調査のうち2回目調査で採用された41項目を抽出

b) r=Spearmanの相関係数

2回目調査で用いた41項目の子どもの心のケア実践尺度（案）の回答に要した時間は平均3分9秒であり、1回目調査の同尺度（案）の回答に要した時間21分34秒から大幅に短縮されました。また、5名全員が、2回目調査は、1回目調査に比べて「分かりやすくなった」「負担が軽減した」と答えました。

## まとめ

2回目調査で用いた41項目の子どもの心のケア実践尺度（案）は、児童・思春期精神科看護における看護実践能力を定量的に評価する指標として有用であることが示唆されました。平成30年度は、児童・思春期精神科病棟に勤務する看護師および他の専門職を対象に全数調査を実施し、因子妥当性および信頼性を検討する予定です。

## 謝辞

お忙しい中、調査にご協力くださいました5名の対象者の皆さまに深く感謝申し上げます。この調査は、平成29年～32年度 文部科学省科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）「児童・思春期精神科病棟における地域包括ケアの視点を取り入れた教育プログラムの開発」の一部として実施致しました。

本研究では、「子どものこころのケアと看護」と題したホームページを開設しております。ホームページでは、子どものメンタルヘルスに関わる様々な方との双方向の対話を通して、それぞれの知識・経験・成果を共有することを目指しております。報告書の内容は、このホームページ上で公開しております。

<http://capsychnurs.jp/>



## 研究者一覧

船越 明子	兵庫県立大学看護学部 准教授
宮本 有紀	東京大学大学院医学系研究科 准教授
土谷 朋子	文京学院大学保健医療技術学部 准教授

なお、本研究に関するご意見・ご感想につきましては、お手数ですが下記までお願い致します。

### お問い合わせ先：

研究代表者：船越 明子  
兵庫県立大学看護学部 精神看護学  
〒673-8588 兵庫県明石市北王子町13番71号  
明石看護キャンパス  
TEL&FAX:078-925-9420（直通）  
E-mail: akiko-funakoshi@umin.ac.jp